

# ウクライナ避難者支援 のための情報共有会議 — 第11回議事メモ

日時：2023年4月25日（火）18：30～20：30

開催方法：オンラインzoom

参加者：52名

\* 団体、個人名については敬称略にて掲載しております。



# 挨拶、会議の趣旨、開催経緯

あいち・なごやウクライナ支援ネットワーク／認定NPO法人レスキューストックヤード（RSY） 代表理事 栗田暢之

すでに各地域で様々な支援が実施されています。  
それぞれが大切な取り組みです。

そのうえで、

- 官民が持てる情報を共有しましょう。
- 互いの過不足を補い合ひましょう。
- 共に連携・協力し合い、より有益な支援につなげていきましょう。

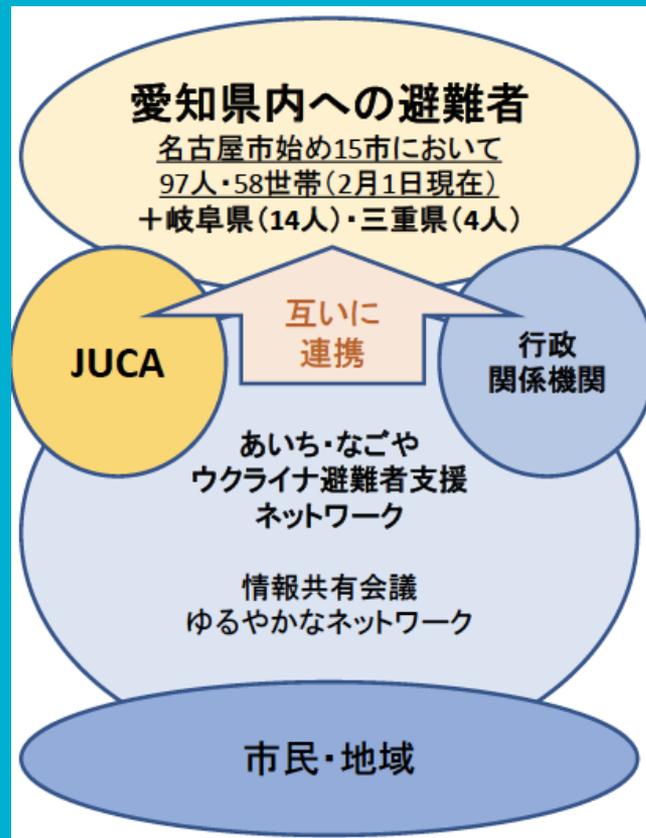
「暮らし」とは、

衣食住・モノ・お金・仕事・教育・医療保健福祉・心のケア・コミュニティ・言語・・・  
緊急的、そして中長期的な視点が必要

「みんなの願い」は、

避難者「一人ひとり」のいのち・暮らしが守られること

行政・JUCA・支援団体等による支援  
地域を基盤とする支援



# 挨拶、会議の趣旨、開催経緯

あいち・なごやウクライナ支援ネットワーク／認定NPO法人レスキューストックヤード 代表理事 栗田暢之

## <最近の取り組み>

- ・JUCAのイースターイベントが大変盛り上がったと聞いている。
- ・避難者のエリザベータさんがデザインした名古屋市相談窓口のポスターを事務所前に設置。相談窓口としてわかりやすい表示をすることができた。
- ・名古屋建設業協会（名建協）の建物内一室をJUCA事務所として今年度も引き続き無償でお借り出来ることになった。避難者の方にとって、「ここに来ればなんとかなる、相談できる」という場所になりつつあることを感じている。
- ・ブラザー株式会社より、ミシンの提供を頂いた。JUCAの刺繍グループ等で利用頂く予定。JUCAスタッフのお二人が非常に喜ばれている写真を見て、私自身もとても嬉しい。
- ・避難者は当初、愛知県内に40名程度であったが、現在（4月1日）107人となっており、倍以上の人数となっている。避難の時期がいつであろうと、避難がスタートしたときから生活がスタートするので、初めて日本に来た状況の中で生活用品が一式必要になってくる。当ネットワークとしてもそうしたサポートをしてきたが、前回ご報告頂いた企業2社のようにたくさんの企業から協力を受けている。最近は、良品計画（無印良品）から家具など生活用品の提供を受けることができ、一軒一軒のニーズを聞きながら調整するなどの仕事もしている。
- ・そのような状況について、これまで10回、情報共有会議で皆さんに共有させていただきながら、顔の見える関係を構築してきた。新年度に入り、情報交流の場、参加者の皆さんが話し合う場としてリニューアルしながら、ご意見をいただきつつ会議を開催していきたい。年度代わりで、参加者が変わることも含めて、顔の見える関係を構築していく、出会いを大事にしていきたい。

# チェックイン（ブレイクアウトルーム1）

- 以下の点を目的にチェックインとしてブレイクアウトルーム1を行った。
  1. 参加者同士が話し合う時間をもっと早い時間にやりたい。
  2. 今困っていること、こんな話を聞きたいということをより早い時間に出し合い、もっと深められる時間にしたい。
- ブレイクアウトルーム1では、グループに分かれて自己紹介等を行った。
  - ・それぞれの支援の関わり方を聞いた。東日本大震災から活動を始めた方も多く参加されていた。
  - ・支援の経験をどう深めていくかを考えたい。
  - ・自治体職員参加者からの感想。異動になって今日初めて参加したので、これまでやってきたことの情報共有ができるといい。
  - ・子どもたちの日本語学習情報などを共有していきたい。
  - ・ヨーロッパで避難者支援をした経験のある方の参加があり、そうした情報も生かしていきたい。
  - ・避難者に近いところで支援をしている人と後方支援をしている人が話をするすることで、つながることができる。

# JUCA (NPO法人日本ウクライナ文化協会)

理事長 川口リュドミラさん、副理事長 榊原ナターリアさん

- ・4/10にブラザーミュージアムに避難者数名が行き、ミシンを使って綺麗な袋を作ったりして避難者もとても喜び素敵な時間を過ごした。ミシンの寄付を頂き、大変感謝している。
  - ・4/15-16はワールドフードフェスティバル@栄で避難者が手作り品を売ったり文化紹介をし、たくさん購入していただいた。またコープあいちから昼食の提供を受けたので感謝したい。
  - ・4/22に避難者の日本語クラスの閉校式を行った。さらに日本語を勉強したいというニーズが多数あり、5月下旬か6月からスタートしたいと思っている。
  - ・4/23に岐阜の温泉施設でチャリティイベントがあり、避難者が25人くらい参加し文化紹介や販売をした。
  - ・4/8はウクライナのイースターイベントを行った。避難者の方が多かったが、日本人も多数参加いただいた。イースターエッグ作りはウクライナの伝統。日本人にも関心をもってもらう機会としてよかった。
  - ・避難者の子どもたちの家庭教師を探している。自身の甥っ子たちの授業参観に行ったが、子どもたちが全く授業が理解できていないことがわかったのでサポートが必要と思っている。
  - ・「つどいの場」は今月からJUCAが行うが、避難者に必要な情報があれば情報提供やアドバイスをしてほしい。
  - ・昨年度に続き、日本人向けのウクライナ語教室がまたスタートする。0から学べるクラスもあるのでぜひ参加を（zoom参加もOK）
  - ・5月のG7サミットに合わせてデモを行う。元々5月に民族衣装のビシュバンカでパレードをしていたが、今は戦争が始まりデモとして行いたい。
- 5/20にエディオン久屋広場で行う。
- ・毎月10日は名古屋市と一緒に久屋大通公園（ヒサヤオオドリマルシェ）で避難者が作った商品売るバザーをする予定。5月からスタートとなる。
  - ・1年経って避難者の困りごととして感じていることは？  
→日本語の勉強を続けたい。高齢者の男性が仕事したいというニーズがあるが、日本語を覚えるのが難しいので課題となっている。現在ドン・キホーテとやり取りをしており雇用の可能性を探っている。
  - ・ウクライナでは戦争が続いており、日本に避難したいウクライナ人はたくさんいるが、日本財団の支援金がないのでどうしたらいいかという相談が本国から寄せられている。
  - ・Q：避難者は都市に住みたいという希望があるか？ → A：ウクライナ語のサポートがあれば、高齢者などは都市部でなくても住みたいという希望はある。また本国では長期休みの間に海や山などに行きリフレッシュする習慣があるので、そのような機会があれば避難者も喜ぶと思う。

# 自治体・支援団体からの報告と質疑

## ●名古屋市国際交流課

- ・特に大きな変更はないが、つどいの場の運営主体がJUCAになった。また、久屋大通公園でのマーケットに出展する調整を行っている。名古屋港水族館から招待チケットを頂いたので、ご活用いただきたい。
- ・名古屋市がウクライナのジトーミル市にフェニールケトン症の子ども用ミルクを寄付した。JUCA、チェルノブイリ救援・中部が日頃から支援をしており、感謝している。
- ・避難者のテチアナさんを雇用しているが、テチアナさんの企画で名古屋市国際センターで「ウクライナ料理を家で作ってみよう」というイベントを行い、その動画を作成した。HPにアップしているので、ぜひご覧いただきたい。

<https://youtu.be/f-OD056Ud1Q>

## ●名古屋入管

新しいことはないが、受け入れが始まって約1年が経過し、在留期間更新申請がされ始める時期なので、適切に対応していきたい。

Q：在留期間更新が徐々にされているという話があったが、名古屋または他の地方入管も含めて、在留期間更新の不許可事例はあったか？在留期間が1年になった人、3年になった人がいるようだが、どういう基準なのか？

A：知る限りでは、不許可事例はないと把握している。提出書類も限りなく少なくなっているため、適切に申請していただきたい。在留期間については、入管HPでも公開しているとおり、避難民については、「特定活動（1年）」での許可となり、現在でもそれは変わっていない。一般論でいえば、ウクライナの本国情勢から帰国できない方であっても、他の在留資格に該当する活動を行っている方については、「特定活動」以外の在留資格で許可される可能性はあり、在留資格によって在留期間も変わってくるため、そういった方について「3年」で許可される可能性もある。また、「特定活動」についても、避難民の方のみならず、様々な活動を行っている方がいらっしゃるため、「特定活動」＝避難民というわけでもなく、そういった方に対しては、滞在予定期間や在留状況等を考慮して、在留期間が決定されることになる。

# 自治体・支援団体からの報告と質疑

## ●愛知県多文化共生推進室

・愛知県は、今年度も昨年度と同じように支援を予定している。日本語教室については、時期が確定していないが6月頃からオンラインの教室を予定している。また詳細が決まり次第お伝えしていきたい。

Q：名古屋市内の避難者属性について知りたい。また、育児中の女性がフルタイムで働くのは難しいと思うので、手仕事で作成した物品を販売したいというニーズはあるか？

A：人数は55名で性別は女性が多いが子どもについては男の子もおり、年齢は幅広く一桁代の方もいらっしゃる。学生の割合が30%、20代～60代が45%、60代以上は25%。

・確かに子連れの方に働いてもらう方にどうしたらいいかという事は課題であり、実際に支援ニーズとしても託児が多い。現在JUCAが行っている高齢者の方の生きがいづくりという意味で物品制作して販売という事も実際に行われており、ニーズはあるようだ。施策提案として検討したい。

Q：日本語だけではなく、英語教育も大事ではないか。

A：インターナショナルスクールに行き、英語は話せるという子どももいる。一方、学費や籍が空いているかどうかという問題もあり皆さん通えるかということそうではない。母語がどうなるのか、ウクライナ語と英語の相関性の問題もある。親とコミュニケーションしやすい言葉、自分が表現しやすい言葉で自分の気持ちをどう表せるか、子どもが自分を表現しやすい言語は何語と考えるか、それをどう見守っていける社会にするかということが大事と考える。

# あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク

あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク／NPO法人レスキューストックヤード（RSY） 事務局 加藤絢子

ネットワークが発足し1年ということで、改めて1年間の活動報告をさせていただきます。

## ●ネットワークの活動

- ・情報共有会議の月一開催
- ・避難者受け入れ自治体訪問：避難者の情報を共有し、よりよい支援のために連携している。
- ・公式LINE配信：避難者に登録していただき物品提供、日本の習慣や在留資格関連の情報、学習支援など必要な情報を発信している
- ・ホームページ、Facebookでの情報発信

## ●名古屋市の委託事業

- ・支援登録窓口業務：支援したい方からの問い合わせ対応。物資を提供したい、ボランティアしたいという方に登録フォームに入力していただき、ニーズがマッチングした際に調整している。
- ・支援マッチング：物資提供、託児、運搬、イベント、通訳など。

## ●上記2つに共通する事業

- ・避難者の個別カルテの作成（避難者の現状を理解し、支援を検討するため）
- ・個別相談
- ・イベントや交流会開催
- ・物資管理

※当ビル内の物資棚から必要な物資を持って帰ってもらえるようにしている。ソファやお茶コーナーもあり、皆さんの憩いの場となるように、来所した際に気軽に相談してもらえようになっただけいいなと思っている。そうした場になったのもJUCAがこのビル内にいるから。自治体のつながり、JUCAの協力があって今の支援につながっている。

# あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク

あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク／NPO法人レスキューストックヤード（RSY） 事務局 加藤絢子

## ●避難者状況（2023.4.19現在）

愛知105名（うち、名古屋市：33世帯55名（うち5名は一時出国中））  
岐阜14名、三重3名

## ●自治体の訪問

・愛知県：県庁・11市、岐阜県：県庁・1市

自治体だけではなく、支援団体に会ってどのような支援をしているか、具体的に情報交換をすることもある。愛知県や名古屋市とはよく会議をしているが、避難者の避難初期と現状の変化を把握するために、今年度も他の自治体にも訪ねて話したい。

## ●寄付協力（3月末現在）

合計5,352,365円

※市営住宅に引っ越し際に、エアコンや給湯器など必須であるが高額なものを購入する費用として活用させていただいている。身元保証人では購入が難しい物資など。

## ●物資支援等

近藤産興(株)、(一社)名古屋建設業協会、(株)マルワ、名鉄協商(株)、つなしょ、連合愛知、PPIH、(特非)フードバンク愛知、(特非)セカンドハーベスト名古屋、(株)コケナワ、(特非)チュラ・サンガ、(特非)仕事工房ポポロ、社会的居場所いっぽいっぽ、オーガニックファーマーズ朝市村、中部土木(株)、(株)劇団飛行船、日本特殊陶業(株)、個人他

（順不同）

## ●これまで開催のイベントや交流会（ネットワーク）

- ・至学館大学の協力によるもみほぐし&子どもの遊び交流会
- ・100均お買い物ツアー
- ・100円マーケット
- ・ジョギングフェスティバル参加
- ・自然が好きな方が多い。芋掘り交流会（写真左）
- ・東日本大震災の被災者が行っているパッチワークの会とコラボして、月1回刺繍・パッチワーク交流会をしている（写真右）など



# あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク

あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク／NPO法人レスキューストックヤード（RSY） 事務局 加藤絢子

<名古屋市支援登録窓口業務> 2023.4.25現在

◎支援登録件数 企業・団体：58件 個人：157件

◎マッチング件数 企業・団体：63件 個人：82件

・物資提供：(株)山岸工務店、クレイン英学校、スペイン窯 パンのトラ、Man to Man(株)、あらSun農園、NPO 法人名古屋外国人共生支援協会、想念寺、aichikara、NPO 法人多文化共生リソースセンター東海、愛知県歯科医師会、明治安田生命、生活協同組合コープあいち、株式会社サーヴオール、NPO法人ICDS、朝日村観光協会、個人

・運搬協力：(福)名古屋ライトハウス、生活協同組合コープあいち、個人

・イベント：転輪太鼓、日本舞踊藤流、豊田合成スコピオンズ、トヨタヴェルブリッツ、個人

・託児、通訳協力：個人

・その他：ウクライナを支援する愛知の司法書士有志の会（法律関係の相談）、フードバンク愛知（倉庫貸与）（順不同）

- ・太鼓、ラグビー、バスケなどの試合観戦の招待（写真右）
- ・ヘアカット・はりきゅうは専門職の方に登録していただいて、事務所で施術場所を作り、希望する避難者へ施術（写真中央）
- ・運搬・引っ越し：市営住宅への転居が何度も何度もあった。また転居後も家財道具が足りない方が多くあり、寄付のマッチングとともに、運搬ボランティアの方には運び出しから搬入まで何度もご協力いただいた。
- ・物資：食品や生活用品の提供をいただいた。棚に物が少ないと見た目にも寂しく感じるため、不足してきたら企業等にお声がけし、なるべく棚が充実できるようにしたい。物資の陳列をしてくださる支援者の方もいらっしゃった（写真左）



- ・避難者へ支援金を頂ける個人の方がおり、贈呈式を企画。軽食のご提供もいただき交流会を実施、県内に住んでいても初めて会ったという避難者の方もいた。
- ・託児：JUCA主催日本語教室の間に待っているお子さんの託児。登録ボランティアの調整。特に春休み、夏休みは必須。
- ・通訳：通訳ボランティアはイベント時などに大変ありがたい。
- ・ボクシング練習相手：避難者のお子さんでボクシング好きな方の練習相手

# あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク

あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク／NPO法人レスキューストックヤード（RSY） 事務局 加藤絢子

＜これまでの主な相談、支援内容＞

- ・親の日本語教室時に子どもをどうするか→託児ボランティアをマッチング。
  - ・生活に必要な家財の調達とその運搬依頼  
→支援登録や民間支援、ネットワークの繋がりを介して調達。また、寄付金より購入。
  - ・調達した家財等の運搬→運搬ボランティアの要請。また、ネットワークで配達。
  - ・生活消耗品の調達→支援登録やネットワークの繋がりを介して。
  - ・就労希望→希望の職種について調べる。ハローワークに繋いだり、問い合わせや調整。
    - \* ご自身がウクライナで就いていた職種に就くことは難しい。面接の調整やハローワークにつなぐサポート
  - ・各種申請について(市営住宅の申し込み・転入手続き・資格外申請許可・確定申告他)  
→内容別に詳細を調べる。確認申請用紙の代筆や同行。
    - \* 在留資格、資格外活動許可などの情報について、司法書士の方にボランティアでご協力頂いて動画を作成し、避難者の皆さんに周知した
  - ・日本語の学習について  
→居住地の自治体や支援団体に相談。学習ボランティアとのマッチング。
  - ・避難民と認定されていない方について  
→こちらに情報が繋がった方の中に避難民と認定されていない方もいらっしゃる。居住地の自治体に相談し、JUCAと一緒にどのような支援ができるかを考える。
- \* 個別に困りごとなどの確認。  
\* 居住場所等の都合により、普段会えない方への個別訪問。  
\* 各種交流会やイベントの開催。

# あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク

あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク／NPO法人レスキューストックヤード（RSY） 事務局 加藤絢子

## <具体的ケースの紹介>

- ・元々県外にまず来日し、愛知県内に身元保証人が見つかリ愛知県内に転居された方。
- ◎母子(母40代子ども10代)：国の支援により来日。ホテルに数週間滞在の後、名古屋市へ。
  - \*名古屋での一時滞在場所を探す(2か所)
  - \*区役所同行。転入届・ひとり親手当申請(本国証明書の日本語訳作成)・国民健康保険・国民年金の申請→(滞在区の変更により、再度申請同行)
  - \*ガス・電気・水道の使用開始連絡
  - \*口座引き落とし書類の代筆
  - \*移動の為の運搬(一時滞在先→市営住宅)
  - \*一部家財の調達・運搬
  - \*無印良品支援の希望品調整
  - \*就労について(ハローワークへの繋ぎ・希望先へ電話・履歴書作成・内定後の確認電話)
  - \*不在通知について
  - \*公共交通機関のチケット購入同行や移動経路の案内
  - \*子どもの学校について(本国でのオンライン授業に参加の為、日本の学校には通っていない)→入学についての相談また、自治体・教育委員会・学校への問い合わせ

## <課題>

- ◎新規避難者対応：日本財団によるウクライナ避難民への経済的支援受付終了、ソフトバンクスマホ新規貸与5月末日まで、家財調達等
  - ◎避難生活長期化：精神的ケア(専門家によるアドバイスの必要性・交流会等)、就労、就学、就学児のケア、日本語の習得、必要物資の調達等、支援者(主に身元保証人)のケア
  - ◎手続き関係：在留カード更新、資格外活動許可申請、各種税金について等
  - ◎その他：世間の避難民への関心後退等
- 孤独・孤立を防ぐ

- ・一番時間がかかるのは、話をする事。言葉の問題。避難者の方が日本語に変換してメールをしてくださる時もあり、気を遣ってくれていることがわかる。異国の地に来て、大変な苦勞をして支援を求めてきてくれる。支援を求めただけでも大変なこと。
- ・JUCAが日々避難者対応に奔走していて、話をする際にも隙間を縫って話しかけているような状態。名古屋市とも日々情報共有しながら支援をしているが、自治体の力がないと進められない。JUCA同様大変感謝している。
- ・新規避難者が今年になっても来日しており、一から支援がスタート。長くいる方については、精神的に積もったものがあり、そのケアや就労や就学の問題が出てきている。

# ブレイクアウトルーム2 グループ共有

以下の4テーマの希望するルームに移動し話し合いをした。<1、提案・アドバイスがある 2、ネットワーク・RSYへ質問がある 3、ネットワークの活動報告をもっと聞きたい 4、その他、ちょっとしたことを話したい>

## ●ルーム1

①ハンドメイド品について多くの方が作品を作りたくさん売上げていこうという段階ではない、ただ、現在バザーなどで売っている例もあるので、今後避難生活が長引き、収入を得る手段としてたくさん販売しようという可能性もあるが、現在はその段階ではないのでは。  
②行政だけではやれることは限られるので、大学も巻き込んでいけるといいということがあったが、経験上、学生がばらばら来られると困るということがあるので、大学が取りまとめてくれるといい。グローバルハイスクール（GHS）の指定高校は学生の言語能力やダイバーシティ感覚も高いので、クラス単位で協力を得ることは可能ではないか。次世代を担う人たちの参画は次の人材育成も含めて大事。GHSは県内に10校あり関心を持ってもらうことは市民活動の大事な役割。

## ●ルーム2

避難者の就労支援をしている参加者から、就労の実績について質問がありスタッフが回答した。日本語能力が高い方、学習スピードが早い若い世代は、簡単な日本語で就労可能なアルバイトをしている方がいる。その他、3月の会議でご報告頂いた西濃運輸(株)やドン・キホーテでの物資整理等の業務に就いている方、デザイン等能力を生かしてフリーランスで働いている方もいらっしゃる。高齢の方の就労は厳しい印象である。言葉が難しいと一度就業しても辞められる方もいる。名古屋で難民支援を行う団体より、ウクライナに限らず、難民の就労支援は非常に難しい。例え見つかったとしても、母国での経験を生かして働いている方はいらっしゃらないという現状。ウクライナでやっていたことと全然結びつかないことで働いている方もあり、その場合は生きがいと直結するので、働きながら別の仕事を探し中という方もいる。

# グループ共有

## ●ルーム3

①避難者の方が希望している物資は何か？→小麦粉・お米・洗剤は人気。カップラーメンは最初のころ不人気だったが、最近は人気がある。無印良品の支援に感謝しているという例。ある自治体では、避難者と関係が築ける前はなかなか欲しいものを買ってもらえなかったが、関係が築けた後、「大きな枕が欲しい日本の枕は眠れない」といったニーズを聞き取ることができたという事例があった。

②避難者に障がい者がいるか？→もともと足に障がいのある方が避難者の中にいらっしゃり、これからケアしていきたいという話がでた。言語の壁があり、些細なことがぽろっと出てくるのが難しいと感じている。トイレットペーパーがウクライナではもっと分厚い、日本のペーパーが不安だという話を聞いた。いつも使っていたもので安心できるということも大事と感じた。

## ●ルーム4

言語学習プラットフォームのサイトがある（以下URL参照）

<https://www.italki.com/ja/teacher/5973709/ukrainian>

このサイトを通して個人で授業をしたり受けたりすることができる。ウクライナ語だけでなくいろんな言語を勉強でき、スケジュールなども確認することができるので、自分の希望に合わせて選ぶことができる。料金は30分5ドル程度。

避難者や難民の方などで日本語を勉強したい方が学ぶこともできるし、言語を教えることができる方のお小遣い稼ぎとして利用することもできると思う。

# ウクライナ避難者支援のための寄付にご協力をお願いします

郵便振替00810-7-215694 口座名義：レスキューストックヤード

(ゆうちょ銀行以外の金融機関からのお振込み)

ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900）・〇八九（ゼロハチキュウ）店（店番：089）

当座 0215694 口座名義：レスキューストックヤード

※領収書は認定NPO法人レスキューストックヤードからの発行となります。